きほく通信

第1号
2006年
11月27日
発行

那賀地方
患者家族会
きほく

会長　吉村由里子
〒649-6203 岩出市桜台381
TEL 0736(60)1643
【事務局】〒649-6612 紀の川市北涌371
森田敏子方 TEL 0736(75)4413

那賀地方患者家族会きほく設立総会開催

10月22日

このたび、那賀地方の難病患者・長期慢性疾患患者やその家族に呼びかけ、那賀地方患者家族会「きほく」を設立しました。会場の打田生涯学習センターにはボランティアを含め約50名が参加し、開催されました。

まずはじめに会長に就かれた吉村由里子さん（写真上）から、「難病施策が後退する中、患者や家族が当事者の思いを率直に話せる場所づくりに努力したい」と挨拶され、また各市の代表として岩出市から吉村太一郎さん（写真左上）、紀の川市から保田茂樹さん（写真左下）がそれぞれ挨拶されました。

また来賓として県難病・子ども保健相談支援センター長中江静子さん、紀の川市福祉保健部長松原優さん、NPO法人難病患者障害者相談支援センターNSC理事土生晃之さんからそれぞれご祝辞をいただきました。

講演では和歌山県難病団体連絡協議会会長森田良恒さんから【患者会に参加しよう！】と題して、自らの体験や仲間の体験をもとに、患者会に心救われ、当事者同士の仲間ができ、助けられた思いを語り、患者会が社会にとって必要なことや社会資源そのものであることを話されました。

今回のきほく設立会開催に際し、三題の当事者体験発表がありました。スモン病患者の谷口陽子さん（写真右中）から「態度を一変した主治医」、初代会長で膠原病患者吉村由里子さんは「魂は健常者」、膠原病の娘さんを持つ神森和子さん（写真右上）から「30年目の診断」と題して、切実な闘病体験が発表され、聴取者の中には目頭を押さえながら聞き入る人も多くありました。最後に貴志川町の橋爪カチヨさん（右写真下）から「患者会であっても楽しくなければいけないと思っています。那賀地方患者・家族会きほくは、そのような患者会をめざし、みんなで知恵を出し合い、希望のもてる療養ができるよう、患者・家族が心を一つにして力を合わせ、私たちの歩みようで一歩ずつ進んでいきましょう」との設立アピールが読み上げられ盛会に終了しました。

紀の川市と岩出市に活動助成金申請

きほく設立に際し、11月8日紀の川市と11月21日岩出市に対し、活動助成金の予算計上をお願いしました。

紀の川市では福祉保健部長の松原優さんに、岩出市では生活福祉部長の松下博行さんに提出しました。それぞれ担当者も同席いただき「きほく」の実状と助成金の必要性について聞いていただきました。この際、紀の川市では那賀支所長西岡安廣さんと岩出市では吉本勧曜市会議員に同席いただき助言をいただきました。

なお、「きほく」からは岩出市吉村太一郎・由里子夫妻、紀の川市保田茂樹さん、事務局から森田良恒・敏子夫妻が参加しました。（助成金が約束されたわけではありません）

資金獲得のための二つの事業に参加

11月7日

和歌山県難病連が毎年10月第1土曜日に、JR和歌山駅前で開催する国会請願街頭署名活動に参加しました。この活動には神森和子さんと事務局から森田敏子さんが募金活動を行いました。

11月18日～19日

ビッグホエールで開催された「ふれあい人権フェスタ2006」では、和歌山県難病連とNSCのブースで紀の川市の那賀支所長西岡安廣さんから寄付いただいたみかんと、事務局の森田敏子さんの姉である打田の筒井弘子さんから寄付いただいた手作りコサージュを販売しました。19日には会長の吉村ご夫妻、子どもさんお二人も参加いただき、販売や啓発のお手伝いをいただきました。この日の売り上げと寄付金の合計は、27，602円でした。このお金は「きほく」名義の郵便通帳に入金しました。